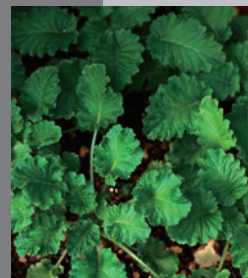


筑波大学大学院 博士後期課程
理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 農学学位プログラム

NARO連係先端農業技術科学 サブプログラム

Doctoral Program in Agricultural Sciences (Subprogram in Advanced Agricultural Technology and Science cooperated with NARO),
Graduate School of Science and Technology, Degree Programs in Life and Earth Sciences,
University of Tsukuba



革新的生産品質管理システム研究分野

Innovative Crop Production and Quality Control System



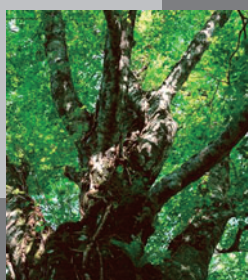
革新的家畜生産システム研究分野

Innovative Animal Production System



革新的育種栽培生理システム研究分野

Innovative Crop Breeding and Cultivation System



NARO連係先端農業技術科学サブプログラム

■ 本サブプログラムの概要

現在日本の農業は、食料の安定供給、食の安全性、環境負荷の低減等を実現し、かつ農業生産力の向上と農業体質を強化することが求められており、研究現場ではこれに資する農業生産技術の開発を総合的・効果的に進めることが強く期待されています。このためには、先端農業技術を考究し、十分に現場で応用できる人材の養成が必要です。

本サブプログラムは筑波研究学園都市に位置する国立研究開発法人「農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）」に在籍する研究者が連係大学院教員として運営に当たっており、農学学位プログラムの中のサブプログラム<NARO連係先端農業技術科学サブプログラム>として位置づけられています。革新的生産品質管理システム、革新的家畜生産システム、革新的育種栽培生理システムの3つの研究分野があり、前掲の人材を養成し社会に送り出すことを目的として、博士前期課程（修士課程）までに学んだことを当分野に活かして発展させようとする学生を対象に研究指導を行っています。

■ 本サブプログラムの特色

- ・ キャンパスは国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
- ・ 指導教員は農業技術・科学分野の最先端を行く研究者
- ・ プロジェクト型研究への参加
- ・ 研究所・研究室が提供する最適で強力な研究・指導体制
- ・ 社会人の方は現在の研究や仕事を続けながら博士号を取得可能

■ 研究分野の紹介



革新的生産品質管理システム研究分野

Innovative Crop Production and Quality Control System

- ・ 田中 剛 ゲノム情報の育種利用に向けた種間比較解析、分子進化研究
- ・ 光永 貴之 統計モデリングを用いた病虫害発生予測システムの構築に関する研究
- ・ 木村 俊之 LC-MS/MSを用いた高度分析の農業研究への応用に関する研究
- ・ 深津 時広 ICT・RTを活用した農業生産支援技術に関する研究
- ・ 杉浦 綾 リモートセンシングや画像認識技術の農業応用に関する研究
- ・ 田中 大介 生物遺伝資源の長期保存技術としての超低温保存法に関する研究



革新的家畜生産システム研究分野

Innovative Animal Production System

- ・ 佐々木啓介 畜産物の品質・官能特性・消費者受容の評価と改善に関する研究
- ・ 遠野 雅徳 家畜生産における植物-微生物-動物各界の役割と相互作用の探究
- ・ 荻野 暁史 環境と調和した持続可能な畜産システムの構築に関する研究



革新的育種栽培生理システム研究分野

Innovative Crop Breeding and Cultivation System

- ・田中 淳一 ゲノム情報を活用した作物新育種法の開発に関する研究
- ・松井 勝弘 資源作物や未利用植物の効率的形質改良研究
- ・田口 和憲 根菜類のヘテロシスを活用した高性能品種育成と遺伝学的研究
- ・河野 淳 核果類育種と育種効率化に関する研究
- ・立木 美保 果樹における果実の成熟・老化機構、鮮度保持技術に関する研究
- ・國久美由紀 リンゴ等果樹における大量ゲノムデータの育種への利用に関する研究
- ・渋谷 健市 花の老化制御機構と品質保持技術に関する研究
- ・住友 克彦 花きの生育開花制御に関する遺伝育種学研究
- ・高橋 徳 露地野菜の安定生産技術開発に関する研究

よくある質問

課程について

- Q1. 農学学位プログラム<NARO連係先端農業技術科学サブプログラム>と農学学位プログラムの違いは何ですか？
- A1. 本サブプログラムは、農学学位プログラムの中に設置されています。農学に関する研究指導を行う点は共通していますが、本サブプログラムの教員は全員が国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構に所属しており、各分野の担当教員が所属する研究所において授業を行います。一方、農学学位プログラムの教員は、原則として筑波大学に所属し、筑波大学において授業を行います。

入学試験

- Q2. 入学試験はいつ行われますか？
- A2. 年2回(8月、1-2月)の実施を予定しています。詳しい日程は募集要項をご覧ください。
- Q3. 入学試験はどこで行われますか？
- A3. つくば市にある筑波大学キャンパスで行います。
- Q4. 入学試験を受ける前に何かすることはありますか？
- A4. 入学を希望する研究分野の教員と、出願前に、修業年限である3年間に行う研究内容について打合せを行う必要があります。あらかじめ指導を希望する教員に連絡してください。
- Q5. 社会人枠はありますか？
- A5. 一般入学試験の他に社会人特別選抜を実施しています。
- Q6. 出身の学部・大学院は問われますか？
- A6. 原則として、出身の学部や大学院前期課程(修士課程)は問いません。詳細については、指導を希望する教員にあらかじめ相談してください。
- Q7. 修士号を取得していなくても、受験できますか？
- A7. 出願前の出願資格認定審査において「本学において修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者」と判定された場合は、本サブプログラムを受験することができます。

教育活動

- Q8. サブプログラム以外が開設する筑波大学大学院の授業は受講できますか？
- A8. 一定のルールのもと、可能です。
- Q9. 修了要件はどのようになっていますか？
- A9. 必修科目を3単位履修し、博士論文の審査及び試験に合格することです。論文提出にあたっては、在学中に査読付き英文筆頭原著論文1報以上を公表する必要があります。
- Q10. 修了した場合、どのような学位が授与されますか？
- A10. 博士(農学)です。
- Q11. 社会人ですが、仕事と学修を両立できますか？
- A11. 修了に必要な単位数は3単位で、集中講義で修得することも可能です。また、研究所に常駐する必要はないため、仕事を続けながら履修することが十分可能です。実際に、これまで多くの社会人学生が博士の学位を取得しています。詳細については、指導を希望する教員にあらかじめ相談してください。
- Q12. 早期修了は可能ですか？
- A12. 可能です。通常は3年間の在籍が必要ですが、優れた研究業績を上げた場合には、1年以上の在籍で修了することができます。
- Q13. 奨学金制度はありますか？
- A13. 筑波大学では、学生の修学を支援するため、授業料免除等の経済的支援を行っているほか、日本学生支援機構、地方公共団体、民間奨学団体等による奨学金制度を取り扱っています。
- Q14. 在学中にリサーチ・アシスタントとして任用されることはありますか？
- A14. 教員の研究補助として、選考によりリサーチ・アシスタント(非常勤職員)に任用される場合があります。任用された場合には、勤務内容に応じて給与が支払われます。

